

MIDORI NO TOHOKU

みどりの東北

No. 78

発行日 ■ 平成22年 9月 発行 ■ 東北森林管理局
秋田市中通五丁目 9-16 TEL. 018(836)2192

ホームページ ● <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>



全国の子どもたちが交流 (詳細は2ページで紹介)

トピック

特集

「『学校林・遊々の森』全国子どもサミットin東北』を開催」
指導普及課

美しい森林づくり (地域発案システムの取組)

「ボランティア団体等と連携して進める森林整備」
津軽森林管理署

我が署の隠れた名所

「千沼ヶ原」
盛岡森林管理署



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。



特集 コーナー

『「学校林・遊々の森」
全国子どもサミット in 東北』
を開催

指導
普及課



八月九日（月）、十日（火）の両日、秋田県八峰町の秋田白神体験センターにおいて、『「学校林・遊々の森」全国子どもサミット in 東北』が開催されました。本サミットは全国から集まった子どもたちが学校林等を活用した森林づくりなどの体験活動や森林づくりへの夢について発表を行い、また、自然観察等において森林や樹木にふれ合いながら、お互いの活動状況等について情報交換し、『「学校林・遊々の森」活動を全国的に広げていこうとするもので、平成十九年に東京都八王子市で初めて開催されました。四回目となる今回のサミットには、当局管内からの九校に加え、北海道、岐阜県、静岡県、神奈川県から参加があり、十三小学校等の児童三十七名と引率の先生、実行委員を合わせ約百名が参加して行われました。

九日の開会式では、主催者を代表して角林野庁国有林野総合利用推進室長の挨拶があり、続いて、来賓の

加藤八峰町長の歓迎の挨拶のあと参加校が紹介されました。

その後、八峰町留山ブナ林や能代市二ツ井の仁鮎水沢スギ植物群落保護林を散策して森林にふれあう予定でしたが、あいにくの天候のため、予定を変更せざるを得なくなり、藤里町の白神山地世界遺産センター藤里館に会場を移し、遺産センターの見学となりました。せっかくの機会であり、散策しながらの自然観察を是非とも行いたいとの参加者の願いがかなわず、残念な結果となりました。

夕食後、先生及び実行委員は「森林を活用した教育をする上での課題と克服に向けた取り組み」をテーマに四分科会により討議し、今後の学校林等の活用について意見交換しました。

また、子どもたちは、木に触れる機会として、講師による指導のもと積み木で自由に創作したり、秋田スギを使用したマイ箸やスプーン作り



個性豊かな作品を前にして

を楽しみました。積み木による創作では、間伐材で作られた様々な形の積み木を組み合わせ、他校の児童と一緒に笑い顔の中、個性豊かな作品をそれぞれ創り出しており、木を大切に使用する心が芽生えたのではないのでしょうか。

十日は、各小学校等による学校林等を通じた森林学習や森林づくりの取組について発表が行われ、発表した児童たちは「私たちが植えた広葉樹や針葉樹が六十年後、大きくなり、水がきれいで生き物がたくさん住めるよう豊かな恵みを与えてくれる森になってほしいと思います。」「木を育てて森を作ることを通して、美しい森づくりや環境作りに努め、自分たちの身の回りから地球温暖化についてこれからも真剣に考え、美しい森林がある地元を誇りに思い、自然から学んだ豊かな心をたくさん

人に伝えていこうと思います。」など森林体験学習を通じて、「それぞれの地域における自然豊かな森林や自然環境への意識」を高めようとする生き生きとした活動発表が行われました。

閉会式では、主催者より「参加された子どもたちは本サミットで感じたこと、また、たくさんの森林とふれあった経験をわすれないで欲しい。そしてこれから出会うたくさんの友達にこの楽しい経験を話して欲しい。先生達はこれからも創意工夫しながら子どもたちと森林を結びつける先導役を果たしていただきたい」と講評、挨拶があり無事終了することができました。

最後になりましたが、本サミットを開催するにあたってご協力を頂いた関係者の皆さんご協力ありがとうございました。紙面を借りてお礼とさせていただきます。



児童による活動発表

美しい もり 森林づくり

(地域発案システムの取組)

ボランティア団体等と連携して 進める森林整備

津軽森林管理署

森林整備活動

○ 赤石川を守る会による活動

国有林内のスギ造林地の下刈・枝打ち・除伐等続け、優良材となるよう手入れ育成し、多様な森林づくりをしながら、環境教育・森林保護思想の啓発を活動趣旨とし、六月上旬から十月上旬にかけて鯉ヶ沢森林事務所内の東赤石山国有林等において、五回で十日間の体験林業を実施し、地域住民四十二名が参加しました。

○ 白神自然学校一ツ森校による活動

白神山地の自然を創造的に活用し、ゆとり教育・環境教育リーダーを養成し、地元経済振興のために森林整備・農村振興等幅広い森林保全活動を行い国土の健全な発展に寄与することを活動趣旨に、鯉ヶ沢森林事務所内の西赤石山国有林等において、植付・下刈・除伐等の体験林業を実施し、多数の児童・生徒及び地元住民が参加しました。

○ 津軽人文・自然科学研究会による活動

津軽地域の自然の価値を探り、また美しい郷土づくり人づくりを目指しながら、次世代を担う子供たちの自然環境と農林漁業に関する科学的な態度・素養の育成を図り研究していくことを



植樹体験

活動趣旨に、五月上旬から十月上旬にかけて大鰐森林事務所内の西虹貝山国有林等において植付・下刈・除伐等の体験林業を実施し、児童・生徒及び地域住民二百六十五名が参加しました。

この他にも、管内の国有林において、多数のボランティア団体等が様々な森林整備活動に取り組んでいます。

「白神山地世界遺産地域周辺森林ボランティア団体等意見交換会」の開催

平成二十二年二月二十八日(日)に弘前市「サンライフ弘前」で実施されたこの意見交換会は、当署管内で活動しているボランティア団体等が一堂に会して活動報告や情報提供などを行い、相互理解を深めるために平成十七年度から開催しているものです。



相互理解を深めた意見交換会

五回目となった今回の意見交換会には、八団体から十三名の参加があり、各団体の活動報告、今後の活動予定や自然再生活動等について意見交換を行いました。

また、津軽白神森林環境保全ふれあいセンターから、「白神山地周辺の森林と人との共生活動に関する協議会」において作成された、今後のボランティア団体等の自然再生活動の指針となる「自然再生マップ」の説明を行いました。

各団体からは、「ボランティア団体どうしの横の繋がりを持ち、連携・協力することで幅が広がる。」などの意見が出され、活発な意見交換を行い成功裏のうちに終了しました。

なお、意見交換会は、今年度も二月に開催する予定です。

世界遺産である白神山地を有する当署管内の国有林内では、その周辺地域を中心に、各種ボランティア団体等による森林・林業体験等の森林整備活動が活発に行われています。

今回は、昨年度行われた森林整備活動の一部と、森林ボランティア団体との意見交換会について紹介します。

ガリバーとラピュタ

森林総合研究所 東北支所

研究調整監 中 北 理

ガリバー旅行記に、ガリバーが大海原を漂流中に巨大な空飛ぶ島が現れて助けられる場面があります。巨大な空飛ぶ島こそ宮崎駿の映画「天空の城ラピュタ」です。この天上の首都ラピュタに住む人達は全員が科学者だったそうです。自国の領空を自由に飛べた乗り物だったようですが、地上にいるガリバーや小人たちを見て、何を考えていたのでしょうか。

私達は旅行をするときや車を運転するときに必ず見るものとして、地図があります。建物や道路、鉄道が書かれていますが、地形の高さを記載したものは特に地形図と呼び、地表面の形状（凹凸）を知ることができます。この凹凸はどのように求められたのでしょうか。

実は、空を飛ばず軽飛行機（セスナ）から連続して写真を撮影します。この連続する空中写真の2枚を立体視し、機械的に画像を計測し地表面の高さを求めているのです。



写真1 最新の三次元立体計測装置

特徴は、①立体鏡に比べ、画像の移動・拡大・縮小・計測作業が飛躍的に向上した。②立体視により樹木などの高さを1m単位で計測できる。③複数の人が同時に把握できる。

私達には右目と左目がありその両目の間隔は約6cmです。私達はいつもこの6cmのステレオ立体映像を見ながら生活をしています。毎日見ているので立体感を意識していませんが、物の奥行きを瞬時に感じているのです。2枚の空中写真を立体視すると両目間隔の6cmよりも離れたところで撮影された画像をわずか6cmで見るため立体感が大きく誇張されま

す。最近の3Dテレビ画像もそのようになっているので、飛び出る迫力として感じるわけです。

地図や地形図は、2枚の空中写真に映った立体画像のわずかなズレを計測することで作成されています。日本全土の空中写真は、第二次世界大戦後アメリカ軍によって撮影された空中写真です。その後定期的に空中写真が撮影され地図が更新されてきました。また、地震や災害が発生したときには、すぐに空中写真用の飛行機が飛び立ち、写真撮影をして詳細な現地地図や立体画像が作成され、救援や対策活動に活かされているのです。

日本は、この空中写真を誰でも自由に購入し、立体画像から計測できる国で、最新の科学技術を組み込んだのが空中写真なのです。精密空中写真オルソ画像を用いれば現地でのコンパス測量以上の精度も可能です。広域な森林を詳細に管理するには必須のものです。

皆さんも、ガリバーやラピュタの科学者になったつもりで、上空から小人の国の森林環境をしっかりと観察し大きさや面積などを計測しましょう。

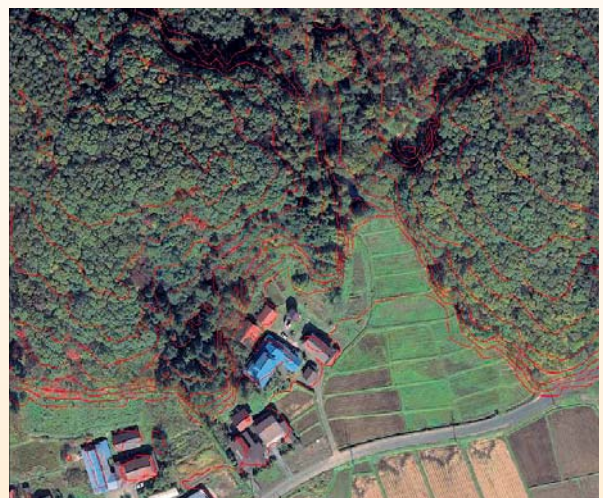


写真2 精密オルソ写真と5m等高線図（岩手県紫波町）

特徴は、①解像度が20cm程度と非常に高精細である。②最適な時期に撮影することができる。③簡易な現地測量の代用ができる。④地形図よりも位置精度が高い。

各地からの便り

下北森林管理署

住民参加の

「育樹祭」を開催

七月二十日（火）、当署の田名部森林事務所部内の国有林において、むつ市との共催による育樹祭を開催しました。

当日は、一般公募による地域住民の方々や地元小学校の児童ら約六十名が参加し、ヒバ造林地の下刈作業に汗を流しました。



指導を受けながらの下刈作業

署長を始め共催機関の代表者からの挨拶の後、業務第一課長より下刈の目的、方法について説明を受け、森林育成係長の模範作業の後、小学生は二人一組で一般参加者はそれぞれ下刈鎌を使い、勢いよく伸びた雑草や灌木の刈り払いを行いました。作業後は、邪魔な雑草や灌木が

取り除かれたヒバの苗木が夏空に気持ちよさそうに枝葉を伸ばしているように見えました。

また下刈作業の後には、下北地域県民局からの「県木あおりヒバ」の取組についての紹介と、続いて、むつ市民バンド二名による「ヒバの森コンサート」がありました。コンサートでは、ギターとピアノの美しいメロディーが森の中に響き渡り、参加した小学生も手拍子を取って笑顔で聴いていました。

最後に児童代表による、力強い「みどりの誓い」があり、郷土樹種であるヒバや森林・林業について、地域の方々や次代を担う子供たちの理解を深める上で有意義な一日となったものと考えています。

岩手南部森林管理署遠野支署

森と湖に親しむ旬間『田瀬ダム・森林探検隊』を開催

七月二十四日（土）、国土交通省田瀬ダム管理支所、電源開発東和電力所及び当支署の共催による「田瀬ダム・森林探検隊」を開催しました。



職員の説明に聞き入る参加者

この行事は、森と湖に親しむ旬間行事として毎年三者が協力して開催しているもので、今回は一般公募による七歳〜七十三歳の老若男女三十六名が参加しました。

当日は、田瀬ダムの堤体内に入りダムの果たす役割や、発電所へ行き発電の仕組み、森林に入り森林内の植生や森林の持つ公益的機能について参加者に理解を深めていただきました。

森林探検では、支署職員がホオノキの葉を使って風車を作る説明に、年配者からは「子供の頃よく作った」とか、アオダモの種には羽根があり、バットを作る木ですという説明に、子供達は「バットになるの」とか、「種が飛ぶの」などとビックリしていました。

また、森林の持つ保水力等の公益的機能の説明にも真剣に聞き入っていました。

最後に支署長から、地球温暖化防止に森林が果たす役割や、日本人一人が一年間に排出する二酸化炭素の量が、材積一立方メートルの広葉樹で約十七本分、針葉樹で約二十九本分に相当するなどの説明をし、今年の森と湖に親しむ旬間行事を終りました。

仙台森林管理署

「蔵王清掃活動」を実施

七月二十四日（土）、当署管内の蔵王において、ボランティア森林パトロール員の「現地講習会」、ならびにボランティアによる「蔵王清掃活動」を開催しました。

七月は林野庁の「国民の森林」クリーン月間となっており、当署では、管内の国有林の中でも入り込み者の多い蔵王の「駒草平周辺」「お釜周辺」等の清掃活動を毎年実施しており、今年で五回目の開催となりました。今回は、土曜日にもかかわらず、当署の「ボランティア森林





パトロール員」及びOBで組織する「宮城森の会」会員のほか、一般公募による参加者十八名、国有林モニター、蔵王町職員を含め総勢七十四名の参加となりました。

当日は天候に恵まれ、下界の気温は三十℃を超える真夏日でしたが、山頂は風もあり、半袖では涼しすぎる位の気温で快適に活動することができ、午前は「駒草平周辺」と「刈田リフト駐車場周辺」に、午後は「レストハウスから刈田岳」と「お釜周辺」に分かれて清掃活動と環境保全のチラシ配布を行いました。

相変わらずタバコの吸い殻が目立ち、空き缶などのゴミも回収されましたが、回収されるゴミの量は毎年少なくなっており、地道な活動ではありますが、



蔵王の自然環境が保たれることを願って

これまでご協力いただいた皆様の取り組みの成果が現れているものと強く感じました。

参加者からは、「ゴミも少なくなったので、次回は場所を変えて活動してはどうか」との意見もいただき、利用者のマナーがさらに向上し、すばらしい蔵王の自然環境がいつまでも保たれることを願って作業を終了しました。

米代西部森林管理署

フォレストボランティア「清掃作業」を実施

七月十五日（木）、当署管内の「市道風の松原線」において、ボランティアによる除草と路面の清掃作業が行われました。

「市道風の松原線」は、能代市内の麒麟ヶ原国有林（風の松原）内にある市道で、旧男鹿街道とも呼ばれる街道跡です。

この作業は、この時期、幅員四m程の市道内に雑草がはみ出し、また落葉等も堆積して道が狭くなっていることから、自転車や歩行者が安心して通行できるようにしようと昨年から行われているものです。

今回の作業には、ボランティアの方々十一名と署員二名の十三名が参加し、先に、草刈機を持ったボランティアの方々が道路脇の草を刈り払いながら進み、その後をスコップや箒を使い堆積した松の葉などを道路脇によせていきました。

今年は、昨年実施した経験もあり、スムーズに作業が進み、予定していた約四百mを二時間程できれいにすることができました。



清掃作業の様子

歩道には、束の間の晴れ間を縫ってウォーキングをする人が多く、周囲に気を遣う作業となりましたが、行き交う人から「お疲れさんです」と声をかけられ、ボランティアの人たちも笑顔で作業することができ、「来年もやるぞ」と早くも次の

ボランティア活動にやる気をみせていました。

米代西部森林管理署

ボランティアによる「遊歩道修理」を実施

八月五日（木）、当署管内の「仁鮎水沢スギ植物群落保護林」において、ボランティアが主体となつて木道等に滑り止め板の取り付けを行いました。

この保護林内には、日本一の天然秋田スギである、「きみまち杉」（樹高五十八m、胸高直径百六十四cm）をはじめ、樹高五十mを超える天然秋田スギが林立しており、一周を約三十分で散策できる遊歩道が整備されています。

しかし、遊歩道に敷設してある木道等は、年数が経過したところやうつそうとした林内のため湿気が多いことから非常に滑りやすくなっており、今回、滑り止めの板を取り付けることとしました。

当日は、九名のボランティアが参加し、歩道の起点から日本一の天然秋田スギまでのおおよそ五百五十mにわたり、新しい滑





り止めの板三百枚を二時間ほどかけて打ち付けました。



修理の様子

ボランティアの方からは、「日本一の天然秋田スギを見学する入込者も増えているようだし、今後も修理等に協力していきたい」との心強い話も出され、当日の作業を終わりました。

秋田森林管理署

仁別国民の森で「ボランティア活動」を実施

社団法人秋田林業土木協会（堀川隆志会長）は、七月十五日（木）、秋田市仁別字務沢国有林内の「仁別国民の森」において、林道及び施設整備のボランティア活動を実施しました。この活動は、同協会が地域への積極的な貢献活動の一環とし



遊歩道の整備

て、「仁別国民の森」の安全・快適な利用を目的に昨年から実施しているもので、利用者が増える小中学校の夏休み前に行われました。当日は、あいにくの天候でしたが、会員各社から四十名が参加し、当署業務第一課長の安全指導、作業前のミーティングの後、仁別林道沿線の草刈りやカーブミラーの清掃、遊歩道のガードロープ張り替えなどの作業を行いました。作業は、仁別林道沿線の約十キロや夫婦杉に通じる遊歩道で約三時間かけて行われ、周辺はより快適な空間となりました。当署では、同協会が来年以降も活動を続けていきたいとしていることから、引き続き同協会との連携により、仁別国民の森周辺の整備に取り組んでいきたいと考えています。

ミニコラム

へえ～
そうなんだ

ミズヒキ 水引（タデ科） キンミズヒキ 金水引（バラ科）

岩手北部森林管理署技術専門官

松 尾 亨

みなさんは、山を歩いてシャツやズボンに「種」がくっついて困った経験がありませんか？今回はその困ったやつを紹介します。

水引と言えばご祝儀袋を思い浮かべますが、その名の通り細長い花序の形から名前がついたミズヒキは、上から見ると赤く下から見ると白く、紅白でおめでたそうな実をつけます。（試しに裏返してみね。）タデ科の植物で道ばたや林の縁に生えて種の先端に写真のような先が曲がった花柱が残ри動物やズボンにくっつく仕組みです。

もう一つのキンミズヒキは、さらにおめでたそうな名前ですが、紅白のミズヒキに対して、黄色の花を金に喩えた表現で名前がつけました。植物

の世界ではキンラン・キンバイなどもそのようです。こちらは、バラ科の植物で5弁の花びらを持ちます。ミズヒキより日当たりの良い道ばたや草地に多く生えるので、子どもの頃遊んだ原っぱで種だらけの思い出があります。くっつく仕組みは、萼（がく）の縁にカギ状のトゲがあり、マジックテープのような役割をしています。

子どもの頃この種を、「クツキバンバン」や「クツキムシ」と呼んで遊んでいましたが、みなさんの地域ではなんて呼んでいたかな？



①ミズヒキ



②キンミズヒキ
下の方が「クツキムシ」になりかけ



ミズヒキの先が曲がった花柱①



伝統ある東北森林管理局の一員として仕事をさせていただくことになりました。東北での勤務は初めてですので、よろしくお願いいたします。

「組織は人なり」が私の基本的な考え方です。一人一人の職員にとってやりがいのある職場づくりを追求することが、組織の力を最大にすることにつながります。そして、国有林の財産は、山を見る目をもった職員の存在です。この財産をいかに役立てていくか、そして更に磨いていくかが私の使命と認識しています。

私も若い頃、山に入って、先輩方からいろいろと山の見方を教えてもらいました。そして山の取り扱いについて大いに議論したものです。しかし、最近では、そういった機会が大幅に少なくなっているのではないのでしょうか。若い職員の方々にとって

は、なかなかチャンスがなくて気の毒に思います。

現在、林野庁では森林・林業再生プランの具体化が進められています。その最も重要なポイントは、地域の森林をいかにすべきかというグランドデザインを描くことのできる技術者の育成です。市町村長が立てる市町村森林整備計画が森林のマスタープランとして位置づけられ、その計画作成を担う技術者を養成するというものです。この技術者は、計画作成という行政事務能力も必要とされますが、こうした能力は、机上の研修で誰でも身につけることができます。最も重要なのは、山を見る目をもっているかどうかということです。この目は、普段の経験の積み重ねで養われるものですから、そう簡単に研修したからといって身につく

くものではありません。

国有林の職員は、山を見る目を養う上で最も有利なはずですが、私も、じつくりと腰を落ち着けて、一年生になったつもりで皆さんと山のあり方を議論させていただき、山を見る目をつけていこうと考えています。

山に行くときは、地図で自分のいる場所を常時把握することは基本です。そして、人工林であれば、何年生、樹高は何メートル、蓄積はどのくらい、木柄はどうか、何に使うために収穫すべきか、どのくらいの価値になるか、伐るとしたら出しはどうするか、作業道の線形はどうするか、沢筋はどの程度残すかなど考えてみて下さい、同行者がいれば、お互いに議論してみることが重要です。間違ったら恥ずかしいと思いますが、口にしないことも多いと思います。が、間違つて当たり前です。だんだん、みんなの山を見る目がレベルアップしてきて、山を見るのがおもしろくなってきました。議論すること、みんなの目も平準化できます。その箇所が実際に伐採されれば、いくらで売れたとかどれくらい生産できたとかを確かめると、自分たちの

想定と比較することもできて、更に見る目に磨きがかかります。

こうした状況ができれば、日本の森林・林業を担う人材は国有林の職員なしには考えられないという評価を得られることは間違いありません。地味な取組かもしれませんが、とても大切なことだと思っています。少しずつ始めてみようではありませんか。

最後になりますが、公務員に対する視線は、以前にも増して厳しいものがあります。しかし、決して萎縮する必要はありません。着任後、間もなくありますが、東北局の職員の意識は極めて高いと感じています。一人一人が東北局の一員であるという思いをもって、一緒に進んでいきましょう。

また、家族と職場以外の人間関係を増やす努力も必要だと思っています。世間から自分がどのように見られているのか、自分の考えは世間でも通じるのかを見極めなければいけません。私も東北の地で、様々な人間関係をつくっていくつもりです。

お世話になります。

地域に溶け込んで

宮城北部森林管理署
鳴子森林事務所

五月女 杏梨



平成21年4月、廃車も間近と思われる官用車（MT ロッキー）と着任数日前に完成した新築の鳴子森林事務所で、私は初めての森林官業務に従事することになりました。

鳴子森林事務所は、宮城県北西部に位置する大崎市のうち、鬼首地区を除く旧鳴子町及び旧岩出山町の国有林約3,700haを管轄しています。業務のすべてがはじめてで慌てばかりですが、署や現場の皆さんの指導・協力を受けながらなんとか日々の業務を行っています。今年で森林官二年目、まだまだ勉強の日々ですが、国有林を最前線で管理していくことの責任の重さを感じながらも、貴重な経験とともに楽しく仕事をさせていただいています。



鳴子森林事務所は、以前の宿舎が老朽化していたこともあり、森林官が鳴子に住むのが数年ぶりになるのだそうです。また、国有林から少し離れたところにあるせいか、近所

の方に「どんな仕事をしているの？」と聞かれることもあり、まずは日々積極的な近所付き合いからと、国有林のPRに励んでいます。今では仕事帰りに「今日も暑いにお仕事お疲れさまね」と声をかけてもらえるようになり、大変うれしくなります。

ここで、鳴子について少しご紹介したいと思います。

鳴子といえばまず温泉。湯治場として名高く、日本国内にある11種の泉質のうちなんと9種が存在しているそうです。温泉街ということもあり、仕事で鳴子に引っ越してきたと話すと「どこの旅館（で仲居さんをしているの）？」と聞かれます。

それからこけし。鳴子こけしは、独創的な前髪と可愛らしい顔立ちの



大きな頭に写実的な菊の模様が描かれた安定感のある胴をしています。主にミズキが使われていて、水分の少ない秋彼岸から春彼岸の頃に伐採し、約1年自然乾燥させます。その後、ろくろで頭と胴を別々に挽き、最後に胴体を回転させ摩擦を利用して首を入れる独特の技法で作られ、首を回すとキュッキュッと音がでるのが特徴です。こけしの街にふさわしく橋の欄干から歩道の模様、公衆電話までこけしで溢れています。



そして鳴子峡。北上川水系江合川の支流、大谷川が刻んだ深さ100メートルに及ぶ大峡谷の眺めは絶景、特に紅葉の時期には多くの観光客が訪れ、この渋滞に巻き込まれ、事務所になかなか帰ってこれないこともしばしばありました。日照に恵まれた今年は、例年に増して美しい紅葉が期待できそうです。

しかし、鳴子峡の美しい景観をつくっているミズナラが、昨年、初めて宮城県内で確認されたナラ枯れの被害を受けました。鳴子峡周辺でも被害を受け、国有林では28本発見されました。昨年発見されたものは既に駆除済みですが、残念ながら今年も被害が広がっています。被害が顕著になるこれからの時期、被害拡大防止のため、被害早期発見・防除に努め、「鳴子の財産」を守っていききたいと思います。



我が署の隠れた名所

盛岡森林管理署

せん しょう が はら

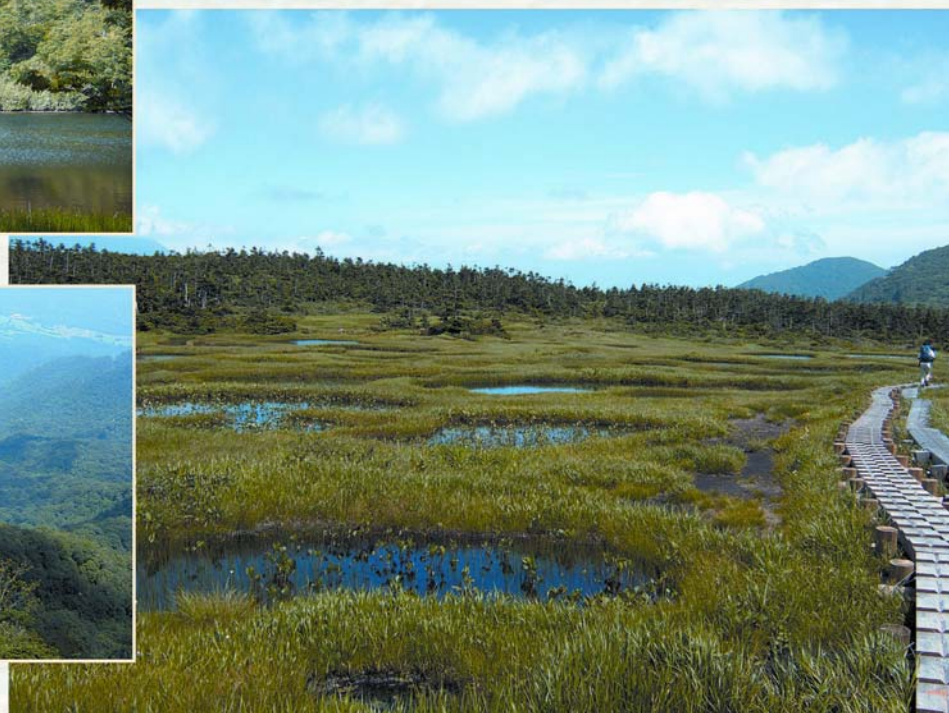
森閑神秘的「千沼ヶ原」



白沼



平ヶ倉沼



「千沼ヶ原」は、秋田駒ヶ岳と岩手山の上に位置し、烏帽子岳東（乳頭山）に展開する神秘的な高層湿原であり、全体で1,000近くの池塘（沼）があることからこう呼ばれています。

標高約1,379mで周りをアオモリトドマツ林に囲まれ、スケールの大きさ（約46ha）や原始性が保たれているという点で貴重な高層湿原で、岩手山、駒ヶ岳などの姿を映す素晴らしい池塘群や湿原特有の色鮮やかな高山植物も見事です。

コース日程は、滝ノ上温泉登山口より烏帽子岳経由で7.6km、220分、平ヶ倉沼登山口より5km、180分です。途中には、岩手県の天然記念物に指定されているモリアオガエル生息池でもある白沼、平ヶ倉沼があり、白い泡状の卵が樹木に付着して白い花が咲いたように見えて美しいです。

また、秋田県側からは、乳頭温泉登山口（大釜温泉）烏帽子岳経由で5.5km、220分です。

交通アクセス

東北自動車道盛岡ICから国道46号線で雫石町へ向かい県道212号線を経由し、平ヶ倉沼入口まで車で45分。また、秋田新幹線雫石駅からは平ヶ倉沼入口までタクシーで35分。（玄武温泉までバスあり）



お問い合わせ先

〒020-0061 岩手県盛岡市北山2-2-40

電話番号:019-663-8001、050-3160-5915 FAX:019-663-8172